

授業科目名 (英文表記)	熊野郷土学2A ～郷土学からの地域振興～ 新宮会場 (Kumano hometown study 2A)		
単位数	2 (学部生のみ)	授業形態	講義
担当教員	此松昌彦、海津一朗、小野健吉、出口竜也、(稲生淳、中瀬古友夫、山田桂一郎)		
開講	南紀熊野サテライト	区分	学部開放科目
実施日・時間	① 7月6日(土) 13:00～17:00 教育学部 此松昌彦 (ゲスト講師)		
	② 7月20日(土) 13:00～17:00 教育学部 海津一朗		
	③ 7月27日(土) 13:00～17:00 非常勤講師 稲生淳		
	④ 8月24日(土) 13:00～17:00 教育学部 海津一朗 (ゲスト講師: 中瀬古友夫)		
	⑤ 8月31日(土) 13:00～17:00 観光学部 小野健吉		
	⑥ 9月7日(土) 13:00～17:00 観光学部 出口竜也 (ゲスト講師: 山田桂一郎)		
<p>【授業のねらい・概要】「熊野郷土学2A」では、前回までに熊野郷土学A・B・C・Dで、地域資源として自然、文化、歴史を学び、地域情報の発信や地域経営、環境保全と自然資源を活用した可能性を学んだ。では紀伊半島、熊野の山や森、海川と寄り添う暮らしは、人々の生活にどのような影響を与えてきたのか？モータリゼーションが発達した現代から見れば、半島には僻地、閉鎖的という閉ざされたイメージがあるが、古代より海に開かれた紀伊半島の特性は漁業や輸送を生業として栄えてきた経緯がある。半島は海を媒介として開かれた空間であり、現在の閉ざされたイメージとは異なる世界が展開していた。日本の近代は紀伊半島にはじまると言っても過言ではない。民俗史や産業史に学び、更に今あるまちの魅力を活かした次世代の地域振興のあり方を、持続可能な視点から考えます。学生、地域づくり関係者、観光関係者、地域ガイド、ジオ関係者、教育関係者、UI ターン者等幅広い分野からの受講を期待しています。</p> <p>【授業計画】※記載の内容は変更することもあります。</p> <p>第1回 ガイダンス ～大地と暮らす人々～ 「熊野地域の地理的な環境の特性とそれらの郷土学を活用した地域振興、教育とは？」教育学部 此松、ゲスト講師 近年「ジオパーク」という言葉が身近になってきている。自然の特性は恵にもなり災害などの脅威にもなる。熊野の産業や、民俗を形成してきた大地は、どのように形成されて今も活用されているのか。ジオ的な特性が、現代の熊野の暮らしにどう活用されてきたのか？人々に支えられてきた歴史を考えます。</p> <p>第2回 半島の歴史から見る熊野 ～日本史から見る熊野～ 「民衆史学の出発は熊野にあり、大航海時代の紀州倭寇と民衆史研究の祖・西岡虎之助」 教育学部海津一朗 紀伊半島の歴史をひもとくなら、古代の丹敷戸畔伝説以来、中央権力に対する反逆者たちが輩出している。とくに中世には、悪党・海賊・倭寇が活躍して独立国「惣国」になり、ヨーロッパ人は「イリヤ・ドスラドロイス」(盗賊の島)と恐れた。海に開けた熊野の歴史を追いかけることによって、日本の近代は紀伊半島に始まるということがわかる(この部分は第3回)。後半では、不世出の歴史家・西岡虎之助と熊野の関わりを話したい。西岡はなぜ、太平洋戦争下の皇国史観による思想弾圧に屈することのなかったのだろう。その秘密を探る。</p> <p>第3回 世界の海から見る熊野 ～世界史から見る熊野～ ペリー来航の62年前の1791年、熊野は日本で最初に米国船が寄港したとの記録もあり、それ以降、過去から現代まで地形や荒天などに起因して多くの外国船が来航した歴史がある。イギリス船ノルマントン号、トルコ軍艦エルトゥールル号の沈没、遭難や地元住民による救助活動、洋式灯台の建設、海外への出稼ぎや移民などから、熊野が世界とつながってきたことがわかる。外国との交流が熊野の人々にどのような影響を与えてきたのかについても考えます。</p> <p>第4回 目で見る熊野の近代史～熊野詣と交通網の形成からみる熊野～ 「近代の熊野における巡礼の変化、及び水陸交通の発達による地域の生活の発展と変化」 良質の木材を産出する熊野地域は、古くから海上交通により江戸との交流が盛んでした。更に大正期には木材を運ぶ鉄道が整備され、それが地域の生活に大きな変化をもたらします。熊野巡礼は観光的要素を帯び、様々な交通手段が開発されるなど、その影響は各方面に及びました。それらの過程を、多くの古地図、絵図、写真などから考察し、新宮を中心とした熊野の、近代における生活文化発展の歴史を考えます。</p> <p>第5回 史跡・名勝・天然記念物から見る熊野 「紀南の史跡・名勝・天然記念物の特色ならびにその保存と活用」 観光学部小野健吉 日本の文化財保護制度における史跡・名勝・天然記念物(以下、「史跡等」)の位置付けと全国の史跡等について概観したうえで、熊野三山や熊野参詣道、円月島・千畳敷・三段壁、那智大滝、橋杭岩などをはじめとする紀南地域の史跡等を紹介し、その特色を考えます。さらに、その確実な保存と適切な活用の在り方について、ともに考えたいと思います。</p> <p>第6回 半島の利点を活かした持続可能な地域振興 「熊野のこれまでとこれから」 観光学部出口竜也、非常勤講師山田桂一郎 経済の地域内循環や求められる人材像などに触れ、半島における持続可能な観光地域づくりを考えます。</p>			

【到達目標】熊野地域の振興について考え、自らのことばで語り、興味に基づいて自ら文献等を調べることができる。

【教科書】特に定めません。基本的には適宜、講義ごとに資料を配布します。

【参考書】村井章介監修 海津一郎・稲生淳編著『世界史とつながる日本史 - 紀伊半島からの視座 - 』ミネルヴァ書房
稲生淳著『熊野 海が紡ぐ近代史』 森話社、東悦子・藤田和史 編『わかやまを学ぶ紀州地域学初歩の初歩』清文堂
藻谷浩介著『しなやかな日本列島のつくりかた』新潮文庫、藻谷浩介・山田桂一郎著『観光立国の正体』新潮新書

【授業時間外学習】紀伊半島の産業のニュースについて関心を持ちながら集めておいてください。

地域でどんなことが話題になっているのか整理しておいて下さい。復習と自主的な学習が必要です。

【履修上の注意・メッセージ】基礎知識がなくても理解できるように授業構成しますが、各自わかりやすい入門書などを読み理解を深めてください。講義は1回完結です。郷土の地形地質が、地域の暮らしにどうつながるのかを考えてみて下さい。